

令和6年度 みどり支援学校 学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>小中高一貫性のある教科指導を中心とした教育課程の編成を行う。</p> <p>・「みどりの学び」の充実（教育課程編成表と日課表の改定）</p>	<p>①各教科（各授業）での授業実践を教科の視点に立って検証や改善を図る。</p>	<p>①-1「教科」を意識し、小中高と系統性のある学習活動を進めていくために、教科会を見直し検証する。</p> <p>・教科を限定し（4教科：音、図・美術、体、生・家）、学習環境の整備とシラバスを使いながら各学部の指導内容の共有を行う。</p> <p>・研究研修チームとの連携：教科を限定し、今年度の単元配列表をもとに、新書式で年間指導計画を作成する。</p> <p>①-2 教育課程編成表について知り、教科等を合わせた指導について現在の編成表と実際の授業について検証する。</p>	<p>①-1-1 指導環境の整備が進んだか。</p> <p>①-1-2 4教科の教科会で各学部の指導内容を共有できたか。</p> <p>①-1-3 授業改善を目指し関係する教科で年間指導計画を作成できたか。</p> <p>①-2-1 全教員が教育課程編成表について理解することができたか。</p> <p>①-2-2 教科等を合わせた指導について、編成表と実際の指導の相違と言う観点で検証できたか。</p>
2	児童・生徒 指導・支援	<p>アセスメントに基づく「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両面から推進する。</p> <p>・自立活動の視点を踏まえた実践の推進</p>	<p>①アセスメントによる児童・生徒の実態把握を自立活動の視点で推進する。</p> <p>②各学部の研究授業や実践等を活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点で授業内容を整理し、授業改善を図る。</p>	<p>①自立活動の視点で日々の振り返りを記録する。アセスメントを指導に生かす。</p> <p>②各学部の「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、実践例を職員会議等で報告し、共有する。</p>	<p>①-1 自立活動の視点を全教員で確認することができたか。</p> <p>①-2 自立活動の視点でアセスメントが実施され、記録されたか。</p> <p>①-3 アセスメント結果を指導に生かしたか。</p> <p>②-1 各学部の「個別最適な学び」と「協働的な学び」について全教員が知ることができたか。</p> <p>②-2 実践報告を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が両立している授業計画に繋げることができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	キャリア教育の視点に立ち、発達段階に応じた進路指導・支援を充実させる。 ・「みどりのキャリア教育リスト」の作成と活用	①キャリア教育に関する既存のリストの整理を行い、発達段階に応じた指導・支援を図る。	①-1 キャリア教育に関するリスト等を教員に周知し、各学部で活用を試みる。 ①-2 キャリア教育に関する教職員研修を実施する。	①-1-1 キャリア教育に関するリスト等を教員に周知できたか。 ①-1-2 各学部でリスト等を活用してみた結果をまとめ、「みどりのキャリア教育リスト」作成の準備ができたか。 ①-2 キャリア教育に関連する教職員研修を実施できたか。
4	地域等との協働	①センター的機能を発揮し、地域の支援教育向上に努める。 ・地域への教育情報の発信を充実 ②交流及び共同学習、地域での活動を通して相互理解を深める。 ・双方向での学校間交流及び地域交流の充実	①地域への教育情報の発信について、引き続き、改善や充実を図る。 ②互いの学びとなる双方向での交流の視点で現在の交流学习等の形態を見直す。	①教育情報を地域に複数の手段で発信する。 ・ホームページに教材のページを掲載する。そのためのCMS操作研修を行う。 ・地域へのセンター的機能の周知方法について洗い出し、実施する。 ・地域教職員向けの公開講座を開催する。 ②1年間を通し、学校間交流を継続しながら、双方向での学校間交流を計画する。 ・地域での児童・生徒の活動を継続する。	①-1 ホームページで教材の紹介ができたか。 ①-2 地域へのセンター的機能周知方法について洗い出しができたか。 ①-3 地域へのセンター的機能を果たせたか。 ①-4 地域教職員向けの公開講座を開催し、検証ができたか。 ②-1 学校間交流を継続できたか。 ②-2 双方向での学校間交流を計画できたか。 ②-3 地域での児童・生徒の活動を継続できたか。
5	学校管理 学校運営	①大規模災害を想定した防災対策を進める。 ・現実的な防災教育と組織的な避難体制の構築と実現 ②安心安全な学校体制の確立を推進する。 ・各種マニュアルの改定と運用、会計システムの構築と運用	①従来から行ってきた防災訓練や防災教育を現実的想定のもと見直す。 ②給食、保健指導、スクールバスについてマニュアル改定や会計システムの整理に着手する。	①現実的想定を行う。 ・通常の避難訓練の想定を変える（停電、時間、火元等） ・二次避難に向けて、避難に適した安全なルートについて調べる。DIG研修と近隣の危険個所を確認する。 ・引き渡しシミュレーションの計画を立てる。 ②給食、保健、SB、会計の各チームで、より安全な学校体制の確立のために見直すべき点（組織・マニュアル等）を洗い出す。	①-1 避難訓練を多様な災害状況を想定した内容に変更し実施できたか。 ①-2 二次避難の安全なルートを確認することができたか。 ①-3 引き渡しシミュレーションの計画ができたか。 ②安全な学校体制の確立のため、見直しが必要な点を洗い出せたか。